

単元名：

「短なわ」

(全3時間扱い中 第1時)

授業日時 2019年9月3日(火) 第5校時

授業学級 3年東組

授業会場 体育館

授業者

指導者

(1) ねらい

児童は、短なわで基本的な前や後ろの連続跳びを参考に、前や後ろの片足跳びと交差跳びに初めて挑戦し、自分の短なわの目標を設定することができる。

(2) 授業のポイント

- ・1, 2年時の短なわの場面で、短なわについての経験が浅い子ども達が、前や後ろの連続跳びに挑戦した。【前時までの子どもの様子】
- ・前や後ろの片足跳びと交差跳びなどを跳ぶことを通じて、短なわの目標を設定する。【授業者の手立て】

(3) 展開

過程	学習活動	○授業者の主発問・◇留意点・★教材	時間
導入	1. 準備体操をする。	○「当番さん、準備体操をお願いします。」 (意図) 普段の体育の授業と同様に、当番の号令で準備体操をしてもらう。 ◇児童の怪我を予防するために、手首と足首を入念に体操してもらう。	5分
	2. 短なわの跳び方についてのクイズに取り組む。 提示：5つの跳び方をピックアップして、問題として提示する。	○「先生が跳んでいる跳び方の名前を知っているかな。」 ◇多くの跳び方の中から、前後の両足跳び、前後の片足跳び、交差跳びの5つをピックアップし、クイズ形式で出題する。 ★問題を見せるための短なわ ◇跳び方が児童にとって難しい名称になることが考えられるので、跳び方を動物の名前に変え、児童の関心を広げる。 【名称の言い換え】 ・両足前跳び→うさぎ ・両足後ろ跳び→エビ ・片足前跳び→カンガルー ・片足後ろ跳び→フラミンゴ ・交差跳び→チンパンジー ○「3年生の短なわでは、この5つの跳び方をするけど、今みんなはどれくらい飛ぶことができるかな。」 (意図) 児童の挑戦したい、やってみたいと思う気持ちを出してもらう。 ◎「もう全部できるよ。」 ◎「やったことないから挑戦してみたい。」 ◎「どれくらい飛べるかわからない。」 ○「どうしたら5つの跳び方を跳べるようになるかな。」 ◎「友達にコツを教えてもらう。」 ◎「YouTubeを見る。」	5分
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>【学習課題】友達や動画を見たり、コツを教えてもらったりして、短なわの目標を決めよう。</p> </div>			

展開	3. 2人1組になって、5つの跳び方を練習する。	<p>○「15分間、2人1組で自由に練習してみよう。」</p> <p>◎「短なわは姿勢が大事だよ。」</p> <p>◇短なわと触れ合う時間も含めて、2人1組で工夫しながら練習に取り組む自由な時間を確保する。</p> <p>◎「自分がどうして引かかるかわからないな。」</p> <p>◎「上手な人はどうやって飛んでいるのだろう。」</p> <p>◇児童が跳び方についての改善点を視覚的に捉えられるように、教師が良い例と悪い例の飛び方をタブレットに動画として用意する。</p> <p>★タブレットで動画を提示する。</p>	15分
	4. 練習の成果を試し、現状での記録を知る。	<p>○「練習した成果と、これから練習していく現状の把握のために記録会をしましょう。」</p> <p>(意図) 現状把握をするために2人1組で今の記録を計測する。</p> <p>◇1分間で何回跳ぶことができるか、ペアが計測する。</p> <p>◎「どう跳んだら一回になるのかな。」</p> <p>◇一回の目合わせのために児童を一人見本として跳んでもらい、教師が数える手本を見せる。</p> <p>◇5つの跳び方全てを計測する。</p> <p>◇途中で引かかっても次の数字から再開する。</p>	15分
	5. 自分の跳んだ記録と次回からの目標を書き出す。	<p>○「自分の跳べた回数とそれを踏まえた次回からの目標を、記録シートに書き込んでみよう。」</p> <p>◎「思ったよりたくさん飛べたよ。」</p> <p>◎「最後はAランクを目指したい。」</p>	2分
【評価(対象)】5つの跳び方に挑戦し、現状について理解し、目標を設定することができる。(記録シート)			
終末	6. 本時の振り返りと感想をまとめる。	<p>○「今日の授業の感想や、振り返りを記録シートに書き込んでみよう。」</p> <p>(意図) 本時の児童自身の取り組みを振り返ってもらう。</p> <p>◎「今、Bランクだから、最後にはAランクになれたらいいな。」</p> <p>◇時間があれば、2~3人に発表してもらい、次の取り組みへの好奇心を増やす。</p>	3分